

市民が大牟田市の未来に希望の光を感じることができる4年間を



自由民主党市議団
森 遵 議員

次期総合計画の10年間は、人口10万人を維持する目標を

問 本市の将来人口展望では、2030年に9万9,210人という数字が出ているが、10万人という数字をどう考えるか。

答 10万人という人口規模については、今後も維持していく必要があり、三つのまちづくりにより、定住人口や交流人口の増加を目指したい。

再発言 次期総合計画の10年間は、人口10万人維持を目標とし、行政、医療、介護、高等教育、買物、飲食、娯楽などの都市機能を維持するための施策を実施してほしい。

動物園の今後の方向性や整備は、子供たちの喜びや育ちを大切に

問 約30年ぶりの大改修のため期待しているが、動物園整備基本計画の策定に当たり、今後のビジョン・方向性は。

答 動物福祉と命の大切さを伝え、市民の憩いの場の提供、さらには、繁殖を行いながら種の保全を行っていくことや、市の主要な観光施設として来園者に楽しんでもらうことな

どを目指す。

再発言 約20年前の動物園存続運動で中心となったのは、子育て、孫育ての世代だった。動物福祉や種の保全も大切なことだが、この大牟田市の動物園を持つ意義は、子供たちのためであるということの基本コンセプトに反映させてほしい。



(キリン舎イメージ図)

子育て支援策 (給食費、医療費、住宅)

問 給食費についての補助は、財源がある今年度までということだが、来年度以降についてはどう考えているか。

答 物価の状況や国の支援等を注視し、本市の財政状況を考慮しながら、引き続き検討していきたい。

再発言 なかなか元には戻しにくいのではないかと。中学校のみを無償化することも含め、来年度に向けて検討を。

問 医療費についても、近隣自治体の動向を考えると今以上の取組が求められていると思うがどうか。

答 今後必要となる財源など

を総合的に判断しながら、さらなる制度の充実に向けて検討を行いたい。

再発言 近隣市町と行政サービスの差がついてきているので、市民の理解が得られるところを模索してほしい。

問 本市でも、空き家を購入した子育て世帯が改修を行う際、補助金をつけ、空き家の流通を促すと同時に、子育て世代のマイホーム取得を支援する制度を導入してはどうか。

答 県事業の既存住宅流通・多世代居住リノベーション推進事業の活用を子育て世代に御案内しているところだが、他自治体が実施する子育て世代の住宅支援について、事業の内容やその効果等について調査・検証を行い、必要な施策について検討したい。

市内全域を対象とした乗合タクシーの導入検討を

問 バスの減便や補助路線が増える一方、バス停まで行くのが大変だといった声も多く聞かれる。荒尾市で実施されているような、市内全域を対象とした乗合タクシーを活用した本市の公共交通の計画を検討してはどうか。

答 高齢者等の移動手段の確保は重要な課題と捉えており、その解決には福祉的な要素も必要である。そのため、他都市の取組も参考に、市全体としてどのような取組が効果的なのか、庁内の関係課長で構成する地域交通のあり方検討委員会で検討したい。